

病児保育 DX vol.2 オンラインセミナー 開催報告

2025年11月12日(水)、『病児保育DXワークショップ vol.2 ~拡がる養育者にやさしい医療支援のかたち~』をZoomによるオンライン形式で開催しました。

本セミナーは、厚生労働省「子育て世代の医療職支援事業」に2年連続で採択された当センターの取り組みの一環として、昨年度の成果を踏まえて継続開催したものです。Web予約システム導入や遠隔診療実践の成果や、現場でのご経験を4名の方からご発表いただき、関係機関との連携モデル構築や地域全体での協力体制の検討と、課題改善や普及方法を議論しました。

厚生労働省 令和7年度「子育て世代の医療職支援事業
医療職のキャリアとウェルビーイングを応援するプロジェクト」

病児保育DX Vol.2

オンライン開催 セミナー

～ 拡がる養育者にやさしい医療支援のかたち～

2025年 11月 12日(水)
18:00～19:20

定員80名
事前
参加登録

18:00 ◆ 会場挨拶	大槻 マミ太郎 (自治医科大学 副学長)
18:05 ◆ 保育園も医局も巻き込もう！地域で広げる病児保育の輪	園田 正樹 (株式会社グッドトーン代表取締役 (東京大学医学部 産婦人科学教室)
18:15 ◆ 遠隔病児保育 病院連携における研究報告	小太刀 葉 (自治医科大学 小兒科学講座 医師)
18:30 ◆ 院内保育施設 「あいりす」での遠隔診療の取り組みについて	廣野 敦子 (自治医科大学保育施設「あいりす」 看護師)
18:45 ◆ オンライン診療 × 院内保育：養育者にやさしい医療支援のかたち ～地域展開～	松原 大輔 (自治医科大学 地域医療学部門 医師 /医師・研究者キャリア支援センター アドバイザー)
19:00 ◆ 質疑応答	
19:15 ◆ 閉会挨拶	坂村 哲也 (下野市長)

対象者

自治医大職員、保育士、薬剤師、看護師、医師、企業・行政関係者、医療機関、保育・病児保育施設、地域医局、育児支援に関心のある企業・自治体

お申込み

参加ご希望の方は右記のフォームよりお申し込みください
締切：2025年11月10日(月)

主催
お問い合わせ先

自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター
03-6285-567501 (内線2448) ccareer-support@jichi.ac.jp

参加者数

女性	34
男性	24
不明	6
	64

学内・学外別参加者数

学内	25
学外	35
不明	4
	64

參加者職種

自治医科大学職員・関係者	25
医療機関・病児関係	18
幼稚園・保育園	4
市役所関係	4
薬局	3
民間企業・その他	10
	64

セミナーは上田先生の司会のもと、大槻副学長のご挨拶で開会し、続いて小形副センター長より開催趣旨をご説明いただきました。本イベントには学内の職員、市内外の病児保育・保育施設・医療施設・行政から60名以上が参加し、ご発表および質疑応答を通じて、情報共有が行われました。最後に坂村下野市長から、当日の発表の感想や、病児保育の現状と今後の育児支援の連携についてご挨拶を賜り、盛況のうちに終了いたしました。



大槻 マミ太郎 副学長



坂村 哲也 下野市長



石川 由紀子 センター長



小形 幸代 副センター長



上田 真寿 先生

■ 「保育園も薬局も巻き込もう！地域で拡げる病児保育の輪」

園田 正樹 先生（株式会社グッドバトン代表取締役/東京大学医学部 産婦人科学教室）

「保育園も薬局も巻き込もう！地域で拡げる病児保育の輪」では、病児保育の潜在ニーズが大きい一方で利用率が低く、保護者に病児保育の情報が十分届いていない現状が共有され、こうした課題に対して地域を巻き込み、市区町村や保育園、医療機関と連携し、保護者への案内を強化することで病児保育をより身近にする取り組みをご紹介いただいた。また保育園を味方にする視点や、薬局など身近な場所での情報提供の重要性など、地域全体で支える仕組みづくりの方向性を示していただいた。



園田 正樹 先生

■ 「遠隔病児保育 産官学連携における研究報告」

小太刀 豪 先生（自治医科大学 小児科学講座 医師）

「遠隔病児保育 産官学連携における研究報告」では、女性医師のキャリア継続を支援する取り組みとして、産官学連携による病児保育 DX 化の実践をご報告いただいた。近年、女性医師は全体の約四分の一を占めているが、出産・育児によるキャリア中断が課題とな

っている。こうした課題への取り組みとして、従来、病児保育利用には診察や感染症検査、薬処方などで一時間以上を要していたが、遠隔診療と予約システムの導入により、手続き時間を短縮し、養育者の負担軽減を実現。さらに専用機器を活用したオンライン診療では、聴診音や画像などの取得・共有が可能で、質の高い診察であることが実際の診察の様子の動画で共有され、取り組みの具体的なイメージを示していただいた。今後の展開に向けて、病院や保育施設、企業など多部門との協力体制を強化することが重要であることをご提案いただいた。



小太刀 豪 先生

■ 「院内保育施設「あいりす」での取り組みについて」

廣野 敦子さん（自治医科大学 保育施設「あいりす」看護師）

「院内保育施設「あいりす」での取り組みについて」では、「あいりす」では昨年度より予約システムの導入と遠隔診療が開始されており、遠隔診療においては聴診に時間を要すること、周知不足や事務手続きの煩雑さが課題として挙げられ、改善策として操作説明の強化や手続き簡素化を進めることをご提案いただいた。一方、機器を活用した遠隔診察の後はすぐに病児保育が開始できるようになり、移動負担の軽減や就業時間確保の効果が共有された。予約システムについては「夜中も予約でき安心」「保育記録を何度も見た」との保護者の声が寄せられたこと、また電話対応が減り保育スタッフの負担軽減にもつながったことをご報告いただいた。



廣野 敦子 さん

■ 「オンライン診察×院内保育：養育者にやさしい医療支援のかたち～地域展開～」

松原 大輔 先生（自治医科大学 地域医療学部門 医師）

「オンライン診察×院内保育：養育者にやさしい医療支援のかたち～地域展開～」では、院内保育所におけるオンライン診療導入の取り組みについてご報告いただいた。園児の急性疾患に対し、医師・スタッフ・薬剤部が連携し、保育中に検査・投薬まで対応可能な体制が整備されたことで、保護者は勤務継続が可能となり、子育て世代支援として大きな効果が期待できることを示された。事前アンケートでは利用意向も 84%と高く、付随する不安の解消に向けた準備も進められ、今後は他地域・学校・在宅医療・へき地・離島などへの展開を検討されており、医療アクセス向上と安心できる環境づくりを目指す新しい医療モデルとして、この取り組みが患者・家族に寄り添う、これから医療のあり方を示していただいた。



松原 大輔 先生

本セミナーが、医療提供の効率化と連携を強化し、病児・養育者・医療従事者にとって“やさしい医療のかたち”を実現する第一歩となることが期待されます。

4人の発表者の皆様、貴重なご経験をお伝えいただき、誠にありがとうございました。

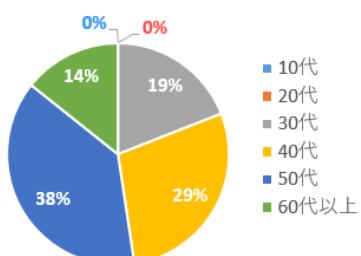


開催後 参加者アンケート結果

■年代

年代

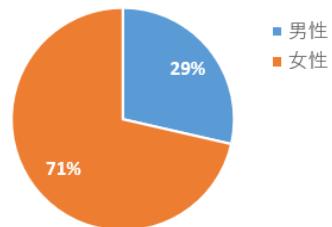
10代	0
20代	0
30代	4
40代	6
50代	8
60代以上	3
	21



■性別

性別

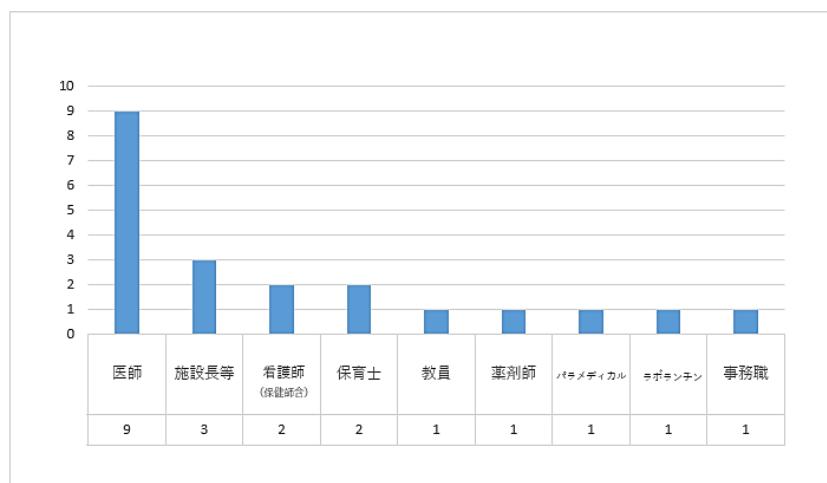
男性	6
女性	15
	21



■職業（例：医師、看護師、薬剤師、保育士など）

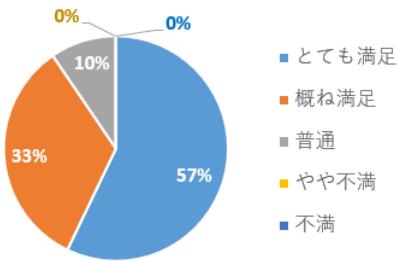
職業

医師	9
施設長等	3
看護師（保健師含）	2
保育士	2
教員	1
薬剤師	1
パラメディカル	1
ラボランチン	1
事務職	1
	21



■セミナー全体の満足度を教えてください

満足度	
とても満足	12
概ね満足	7
普通	2
やや不満	0
不満	0
21	



■発表で特に印象に残った内容（演題やテーマ）を自由にお書きください

- 病児保育の利用料の低さ
- 子の体調不良→オンライン診察の流れで、病児保育を利用する・しない・できない、によらず、仕事を整理する時間が調整でき、病児保育を利用せずとも働く親の助けになっているというエピソード。オンライン診療の機会を始めてみました
- 皆様のご発表は、現場でしか分からない具体的な方法・効果・課題・工夫が詰まっており、大変充実した内容でした。Zoom 開催にも関わらず、ご発表の動画や写真のクオリティが高く、TytoCare の画像の解像度まで伝わったってきました。質疑では様々な立場で保育について真剣に考え取り組んでおられる方がいることについて感銘を受けました、病児保育 DX は、利用者の方々にとってより使いやすい仕組みへと改善していくために、情報共有が不可欠だと改めて感じました。
- どの演題も病児保育をそれぞれのお立場で捉えておられ、大変勉強になりました。
- 病児保育があることを知らない潜在的な利用対象者への周知が必要、運転資金が重要なこと。預けた先で受診、診察、処方、投薬までして頂ければ大変助かります。すぐには迎えに行かない場合もあります。
- 本学での院内保育施設での遠隔診療についての取り組みに非常に驚いた。
- 病児保育の有効活用 一度でも使用すると複数回使用するなど
- 前回、理解出来なかった部分も、良く分かりました。
- オンライン診療の取組について
- 病児保育への、地域をあげた様々な取り組み

- ・遠隔診療の実際と課題

- ・すべて

- ・遠隔診療の一連の流れ

- ・TytoCare

- ・遠隔診療

■遠隔診療を定着・推進させる課題やアイデアがありましたら、お聞かせください

- ・zoomで使い方をマスターできるワークショップ案

- ・普段から遠隔コミュニケーションに慣れておく、他の国的研究課題と合わせると、withNの、看護師の診療技術を高める・慣れる

課題は解決のヒント、今回のように、小児実践して課題を公開することが、推進につながるのではないか

- ・診療報酬改正、自治体との連携、クラウドファンディング、人員配置、ICT環境整備、

- ・保育施設、行政、企業などへの病児保育の制度、利用方法など周知のための説明会

- ・◦企業の施設であれば子育てしやすい企業の醸成のため幹部に発展性を理解いただき予算化してもらう。

- 対象を自施設だけではなく地域住民に拡げていく。

- 国からの子ども子育て交付金の使用用途として遠隔診療を組み込んでもらう。

- 企業版ふるさと納税にて遠隔診療機器の企業から自治体を後押しする。

- 自治体で「子育て世代が働き続けられる市」としてのブランド形成のため病児保育を推進する。・県の医師働き方改革支援補助の一環として実施する。"

- ・勤務と子育てを両立しようとしている方々（両親に限らず、血縁者、知人友人などなど）、病児保育を提供する側への双方向的な啓発・情報共有

- ・病児保育があることを知らない潜在的な利用対象者への周知が必要、自治体が連携していただき、継続していただくこと。更に利用がしやすくなること。

- ・人員配置、ICT環境整備、自治体や地域連携など

- ・自治体・地域との連携や、地元医師会の理解が必要かと感じました。

- ・お試しで複数の保育園で経験していただく。

- ・認知度
- ・遠隔診療の体験会の開催
- ・自治体からの支援。
- ・広報

■その他、事業や制度へのご意見・ご提案があればご記入ください

- ・病児保育でも参考になりそう、参考になって日本の DX が良い方向に向けたら良いですね。
- ・子育てを社会全体で特に専門家との連携
- ・地域行政の理解・サポートが必要と感じました。
- ・講演会のご案内ありがとうございました。
- ・ありがとうございました！勉強になりました